



◇第59回 日本生物工学会大会（2007）後記◇

大会実行委員長 西尾 尚道

日本生物工学会の第59回大会を、平成19年9月25日（火）から27日（木）の日程で、広島大学東広島キャンパスにて開催いたしました。多数の会員のご参加と、関連企業の皆様のご支援、ならびに小笠原西日本支部長はじめ実行委員の皆様のご協力を得て無事に終了することができました。会場を拝借した広島大学の関係者も含め、皆さんに厚くお礼申し上げます。ここに大会の開催につきまして、以下の通りご報告いたします。

9月の終わりの時期とはいえ、残暑厳しい折でしたが、天候には恵まれた3日間であった。講演件数は、一般講演631題、シンポジウム11テーマ56題、招待講演3題、受賞講演6題であった。一般講演631題と招待講演3題を合わせた634講演数は過去最大数であった。一方、参加数は正会員718名、学生会員392名、非会員219名の1326名であった。以下に、今大会に関する特記事項を示す。

- 1) 授賞式：1日目14：00からサタケメモリアルホールにおいて、平成19年度授賞式がとり行われた。おおよそ350名が参加した。塩谷捨明会長の挨拶、顧問の推戴（大嶋泰治氏、児玉 徹氏：欠席）、名誉会員の推戴（谷吉樹氏、隅野靖弘氏、北村勲平氏：欠席）、授賞選考経過報告に続き、生物学賞（西尾尚道氏：嫌気微生物による有用物質生産と環境浄化・エネルギー回収への応用）、生物学功績賞（仁平卓也氏：微生物における有用生理活性物質生合成と制御機構の解明）、生物学功労賞（山縣民敏氏：学会の年次大会併設展示会の端緒を切り拓くなど、本学会の事業発展への貢献）、生物学奨励賞（江田賞）（古林万木夫氏：醤油の機能性に関する研究）、生物学奨励賞（斎藤賞）（芦内 誠氏：バイオキラルナイロンの生産に関する微生物化学的基礎研究）、生物学奨励賞（照井賞）（勝田知尚氏：フォトバイオリアクターによる有用物質生産のための生物化学工学的検討）、生物学論文賞7件（石田亘広氏ら、白井智量氏ら、河邊佳典氏ら、原田和生氏ら、大友理宣氏ら、遠山 忠氏ら、Suchada Chanprateep 氏ら）、生物学アジア若手賞（Ping Xu 氏：The Development and Potential on Microbial Degradation of Sulfur, Nitrogen and Oxygen Heterocycles）の各賞



授賞式にて。前列向かって左から大嶋、谷、隅野、西尾、仁平、山縣、古林、芦内、勝田、後列左から石田、白井、河邊、原田、大友、遠山、Kulpreecha, Xu.（敬称略）

が授与された。授賞式のあと、生物工学功労賞の受賞挨拶ならびに生物工学賞、生物工学功績賞、生物工学アジア若手賞の各受賞者による熱のこもった受賞講演が行われ、多くの立ち見者を含めた聴衆から盛んな拍手が送られた。

- 2) 展示会場（企業ブース）：企業ブースの展示数は地元ベンチャーも含めて28社にのぼった。展示会場での地酒抽選（1人1回）に参加した方は900人になり、展示会への延べ参加人数は1,000人を超えていると考えられた。
- 3) 展示会場（中学生・高校生バイオ研究発表会）：生物工学会大会での初の試みであり、広島県で開催された他の学会でも前例がなかったことから、どれだけ参加校が集められるかが最初の最大の問題であった。しかし、事前の広島県教育委員会のご協力などもあり、最終的に高校11校、中学校2校の参加が得られ、発表タイトルも24で、他の学会における同様な発表会と比べても勝るとも劣らない発表会となった。また、平日開催であったため、当初はポスターのみの掲示で中高生および教員の参加をほとんど期待していなかったが、実際には50名程度の生徒と教員の参加があり、発表会が大いに盛り上がった。熱心に中高生と議論してくださった方は多数おられ、投票数も54票あり、優れたポスターを選出するには十分な数であった。
- 4) 展示会場（生物工学会支部展示）：平成19年6月18日理事・支部長会議で了承された支部活動報告について案を考えた。型式：各支部に1ブース（幅約2m×奥行1m、企業展示と同じ）を展示会場に設ける。ポスター展示、及び支部長の裁量で支部内の個別の研究（特に展示することによって世の中に情報を発信できる試作品など）を選び、その活動を展示する。試作品展示に関しては試験的に運用してみることは意義あることと考えた。展示の具体案として、生物工学会誌に掲載のBranch Spirit（過去のもので活動報告として最も良いと思われるものを支部長の裁量で選ぶ）を展示。支部活動によるシンポジウム（過去未来のもの問わず）を展示。支部長の裁量で支部内の個別の研究（特に展示することによって世の中に情報を発信できる試作品など）を選び、その活動を展示することとした。多くの方が足を運んで下さったことに感謝しています。



シンポジウム会場風景



懇親会（鏡割り）



懇親会風景

◇「中学生・高校生バイオ研究発表会」報告◇

社会全体の理数科離れを阻止すべく理数科系教育に力を入れている中学校・高校で生徒諸君が日々研究した成果を発表してもらおう場を設けるとともに、バイオテクノロジーの普及と理解、将来の生物工学会会員の獲得のために本発表会を企画した。本学会大会では初の試みであり、また広島県では前例がなかったので、どれだけ参加校を集められるかが当初の最大の課題であった。しかし、事前の広島県教育委員会の協力もあり、参加校は中学校2校、高校・高専（1～3年生）11校で、ポスター発表は24タイトルに及び、他学会での同様な発表会と比べても遜色のないものとなった。また、平日にもかかわらず50名弱の指導教員および生徒の参加があり、ポスター発表の90分間、来場の本大会参加者と生徒との熱の入った討論が見られ大いに盛り上がった。来場者の投票により、最優秀ポスター賞、優秀ポスター賞、奨励賞を選び、表彰とともに記念品を贈呈した。なお、受賞校、ポスター番号および発表タイトルは次のとおりである。

<中学生の部>

- 最優秀ポスター賞 C-1「中学生における遺伝子実験の可能性と課題」（三原第五，広島）
- 優秀ポスター賞 C-2「猿猴（えんこう）川底泥環境における生物調査」（広大付属東雲，広島）

<高校生の部>

- 最優秀ポスター賞 K-9「古いクジラヒゲ板からのDNA抽出法に関する研究」（鳥取東，鳥取）
- 優秀ポスター賞 K-3「ニシツメガエルの五感と摂餌行動」（西条農業，広島）
- K-14「開花と体内時計との関係」（清心女子，岡山）
- K-21「シチメンソウの増殖研究」（佐賀農業，佐賀）
- 奨励賞 K-6「オオサンショウウオの遺伝的地域解析と国際交流」（国泰寺，広島）
- K-13「絶滅危惧種Ⅰ類 オグラセンノウのバイオ増殖と栽培についての研究」（庄原実業，広島）
- K-15「花酵母の採取・分類とその働き」（清心女子，岡山）

